

清瀬心身クリニック

DATA 住所:鈴鹿市南江島町9-5
院長 清瀬 豪久
TEL:0593-68-1000

開業して9年目に入りました。それまでの大学病院や単科精神病院での臨床との違いにも、ようやく慣れてきたところでしょうか。診療所の臨床に於いて、つくづく思う事は、うつ病など感情障害の裾野の広がりが、如何に広いかという事や、生きていく為の苦悩や感情の纏れなど、実生活に密着した心の病のあり方を鮮明に感じると言う事です。どこまでが病気なのか、ひとつの疾患単位と捉えられるのか考えさせられます。

しかし、現実の臨床場面では、病であり、単なる苦悩であり目の前の患者さんに、何らかの形で“医療”を求められます。毎日、迷いの連続ですが、これからのこうした迷いを抱えながら、臨床を続けて行きたいと思っています。



待合室 院長の清瀬先生



クリニックの外観

●外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	浜中	川喜田
	再診		川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	山本
	再診	小野	西浦		高山	西村
	再診					

編集

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。今回は、昨年に行われた「病院祭」や「シンポジウム」の様をお伝えしました。今年も皆さまにとってすばらしい一年でありますよう、心より祈念いたします。

さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたく考えています。本誌へのご感想や、こうしたことを取上げてほしいなどのご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

「Live Withすずか」は、当院の理念である“ささえあい、ともに生きる”からネーミングしたものです。今後も、病院の紹介・精神科疾患への理解・メンタルヘルスなどの情報を発信してまいります。

TEL・0593-82-1401 (代表) FAX・0593-82-1402 Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

理念 ささえあい、ともに生きる

患者さまが地域で生活するためには、地域の中に「住む場」「働く場」「憩う場」「癒す場」がなくてはなりません。また、家族・仲間・ボランティアの方々、われわれ医療従事者の“ささえ”が必要となります。当院の理念「ささえあい、ともに生きる」は、鈴鹿厚生病院が地域の中で、“ささえ手”の中心となり、ともに歩んでいこうということを表したものです。

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第5号

2006.01.01

発行/三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集/TCK名古屋
所在地/三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL/0593-82-1401
ホームページ/http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

新年おめでとうございます。

新年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。



三重県厚生連 鈴鹿厚生病院

院長 西浦 眞琴

「全職員が参加する、医療サービスの提供」をめざして

ひとつの区切り

昨年は病院開院40周年を迎えることができ、その記念事業として「こころの元気を養うシンポジウムin鈴鹿」を鈴鹿医療科学大学中村ホールにて盛大に開催できましたこと、心より喜んでおります。平成14年8月からの全館の新築工事も16年12月に完了し、昨年は「大きな区切り」、今年は「新たな一歩」の一年と存じます。「患者さまの為に…」建物だけでなく、こころも新しく、患者さまのご家族の方にも安心していただける病院づくりを行って行く所存でございます。

診療の質的向上と役割平等

患者さまの治療は当然医師だけでは行えません。看護師、薬剤師、PSW、OTなど一人ひとりが病棟を頻りに乗り入れ、一人ひとりが患者さまへのアプローチと連携を効率的・有機的に実施し、包括治療プランニングと役割平等的なチー

ム医療を行うことで、さらに医療サービスを高めることが可能であると考えています。すべての職員がそれぞれの立場で高質な医療サービスを提供できるよう積極的に参加し実践していくことが可能な環境を整備していきます。

地域の医療ニーズに 応えて

昨年10月に地域医療連携室を立ち上げました。入院患者さまの症状に応じて退院後の施設入所や家庭での在宅療養をされる場合や地域医療機関からの紹介で入院治療される方がスムーズに移行できるよう地域医療連携室に医局長をはじめPSWなどスタッフを配置してご相談や適切なアドバイスができるよう、窓口を一本化しました。また地域のメンタルヘルス事業にも力を注いでいきます。ストレスの多い社会において「こころの健康」を保っていくことは、大きな関心となっています。現在は2つの企業や鈴鹿市、亀山市などを対象として医師やPSWを派遣し講演などを行っています

が今後も「メンタルヘルス」を地域ですすめていくことが当院に期待される責務であると考えさらに充実させていきます。本年も皆さまにとって、良き一年でありますよう心より願っております。

心の健康セミナー 誌面版

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号
連載!

テーマ 統合失調症

今回の講師の紹介



中瀬 真治医師

統合失調症という病気をご存知でしょうか？
マスコミなどで取り上げられる機会は“うつ病”のように多くないかも知れませんが、精神科医療では代表的な疾患のひとつです。かつて精神分裂病と呼ばれていた頃に比べ、近年その治療法も大きく進歩しています。この健康セミナーでは、これから4回にわたって「最近の統合失調症治療」についてお伝えしていこうと思います。

まず今回は、統合失調症でみられる症状など、この疾患の概略をご説明します。

統合失調症でみられる“陽性”症状と、“陰性”症状

統合失調症でみられる症状には、空耳のような声（内容の多くは非難や命令）が聞こえてくるといった『幻聴』、外界のことについての誤った確信である『妄想』、「自分のものではない考えが頭にはいつてくる」と感じられる異常な体験など、“陽性症状”と呼ばれるものがあります。一方、周囲への関心や自発性が減退したり、感情表現が少なくなったり、会話の量や内容が乏しくなるなど、それまでにはあった性質や能力が低下する“陰性症状”があります。他にも、集中力の低下や計画性、整理能力の減退といった認知機能の障害や、極端に疲れやすくなって社会・職業上の機能が低下するなどの症状もみられます。しかし、統合失調症の症状は多様で、これら全てが現れるとは限りません。

発症について

およそ100人にひとりの割合で発症するとされており、けっして稀とは言えない疾患です。発症しやすさに男女差はなく、発症年齢のピークは男性で15～25歳、女性ではやや高く25～35歳とされています。はじまりは、急激に強い症状で現れることもあれば、緩徐に進行して気づきにくい場合もあります。

原因

統合失調症の原因について今のところはっきりとは分かっていません。おそらく、ストレスに対する生来のもろさ（『素因』）と、『環境』というふたつの要因が関与していると考えられています。幻聴などのさまざまな症状は、脳内の神経細胞間で情報を伝える働きをする“神経伝達物質”の機能異常によりみられるものと推測されています。この点からは、統合失調症はからだの一部である『脳』の機能障害であるとも言えます。薬物療法の有効性はこうした理由にあるのでしょうか。

次回以降は、薬物療法やリハビリテーションなどの治療法、病気の経過、社会資源の活用などについて取り上げていく予定です。

診察室から

周囲の人たちに理解していただくことが大切です。

小学校で同級生との問題行動が重なり、担任からも学習態度を幾度も注意されている小学3年生の男子。母親の知人の紹介で当院を受診し、発達検査を受けました。今回は母親のみ来院しました。

医師：前は〇〇くん、お疲れさまでした。

母親：いえ検査は楽しかったと言ってます。

医師：その結果からお伝えします。検査態度は思いのほか真面目でしたし、全体としてはかなりよくできています。しかし得手不得手の差がかなりあることが分かりました。たとえば言葉の理解もよいですし、目で見た単純な情報を事務的に処理していく力があります。〇〇くん、計算問題は得意なはずですよ。

母親：はい、それだけはすばやく終わってしまいます。

医師：ところが目や耳から入った情報をあれこれ分析したり関連づけて全体をまとめあげたりとなるとお手上げなんです。皆との話し合いや、じっくり考えねばならない課題では力が発揮しにくい。受診のきっかけは友人とのトラブルでしたね。

母親：ええ、だんだん友達も少なくなっているみたいで心配です。

医師：相手の気持ちを無視すると思われがちですが、場面や状況をすぐに理解できず、その場に合わせることに苦労しているわけです。決して怠けとかわがままな感じではありませんよ。そこで本児の苦手なところを突くのではなく逆に本児の力を活かした工夫してみたいかが



高山 学医師

でしょう。このタイプのお子さんには努めて言葉で説明を加えたり、ルールも話し言葉を使ってひとつずつ確認したりしていくなどです。

母親：担任の先生にも伝えたほうがいいでしょうか。

医師：もし保護者のご承諾をいただければ、こちらから先生に〇〇くんのことを説明する時間をつくります。よろしければ担任に連絡してみてください。

母親：わかりました。それで薬は飲まなければいけないのでしょうか。

医師：いまの状態ならば投薬なしで様子を見ましょう。なによりも〇〇くんがどんなお子さんなのか周囲の人たちに理解していただくことが先決です。そしてご本人の自尊心を大切にしていけることがすべてといってもいいですね。

母親の感想

トラブル続きで私のほうが自信をなくしていましたが、駄目な子じゃないんだと説明を受けホッとしました。ぜひ学校の先生との面談も希望します。

スマイリー・バトンリレー

vol
5



薬剤部のスタッフ

薬剤部

薬 剤部では、3人の薬剤師が『お薬の専門家』として常勤しています。薬剤部業務は、調剤をはじめ服薬説明・薬品管理・相談・情報提供等を適正に行い、安全で安心し納得した治療に参加していただける様に努めています。お薬は病気を治す上で重要な柱です。患者さまの症状に合ったお薬を医師が処方します。薬剤師はその方に合っているか、良くない作用が現れていないか等の確認を行っています。また、薬剤部には患者さまや家族の皆さまの質問や疑問を受けるための【お薬相談室】を設置しています。些細な事でも、お気軽にご相談ください。待っています!!

TOPICS

『こころの元気を養う シンポジウムin鈴鹿』が開催されました。

近年、「こころの健康」の大切さが強調され、マスコミでも大きく取り上げられています。前号でも述べましたが、ストレス社会において「こころの健康」を保っていくことは大きな関心事となっています。こころの健康を保つには“運動すること”“食べること”“休養すること”の三つの要素が不可欠です。今回のシンポジウムではこのテーマに沿った講演と「こころの健康づくり」について聴衆者参加型の意見交換会を行うことで、来ていただいた皆さまが健康を保つためのヒントを見つけていただければと考えました。会場の皆さまが歌い、フリフリグッパを一緒に踊ることで、こころも体もリフレッシュすることを体験していただきました。そこでは笑顔・笑い声がたくさんあり、帰り際にはわざわざスタッフが「よかったよ」と、声をかけてくれた方も大勢みえました。このことから、健康に生活するヒント（こころも含む）を皆さまが感じていただけたのではないかと考えます。



『第17回 病院祭』を開催しました。

さる、10月8日（土）3年ぶりとなる病院祭が開催されました。あいにくの天気にも関わらず多くの皆さまが参加して頂きました。職員が一丸となり、あっ!と驚く工夫を凝らした催しが多数あり、一日では物足りない程多彩で充実していました。地域の保育園児の遊戯など【共に歩もう】という今年のテーマ通り地域の皆さまとの交流があり大変有意義なイベントでした。来年は更にみぎをかけた我々の取り組みを知って頂きたいと考えています。

